

編集後記

名古屋の「人を殺してみたかった」高校生による老女殺害、西鉄高速バスジャック犯による老女刺殺などなど、「17才」の犯罪に世間は驚き、暗澹たる思いにかられている。何が彼らをこのように苛立たせているのだろうか。少年法の改正で済む事柄ではなさそうである。

翻って石原東京都知事の「第三人」発言、そして森総理の「神の国」発言は、国内での物議に留まることなく、わが国に対する近隣諸国の不信感や不安感を煽る種類のものであり、時代に逆行する流れといわざるを得ない。

このような今日の時代が抱える閉塞感に対して、朝鮮半島南北首脳会談およびそれに続く共同宣言は、何とも晴々とした空気を送り込んでくれた。経済協力、離散家族、在韓米軍など今後、解決すべき課題も多いが、実に半世紀ぶりの両リーダーによる握手は、明るい21世紀を予感させるに十分であった。

そして、当物流科学研究所の「所報」も通巻第35号を機に、『物流問題研究』に改めた。題字は、新進気鋭の書家、流通経済大学付属柏高等学校の徳村康広教諭にお願いしている。こちらも、明るい21世紀に向けて飛躍したいと考えている。

(2000年7月 古井)